



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年1月31日

上場会社名 株式会社牧野フライス製作所 上場取引所 東
 コード番号 6135 URL <https://www.makino.co.jp/>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 宮崎 正太郎
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 永野 敏之 (TEL) 046-284-1439
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	165,498	34.7	11,610	123.6	13,217	85.4	10,574	80.4
2022年3月期第3四半期	122,872	57.3	5,193	—	7,131	—	5,860	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 11,530百万円(38.6%) 2022年3月期第3四半期 8,316百万円(133.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	441.77	—
2022年3月期第3四半期	242.37	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	339,287	187,031	55.0
2022年3月期	325,579	178,778	54.6

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 186,540百万円 2022年3月期 177,891百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	10.00	—	50.00	60.00
2023年3月期	—	70.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	80.00	150.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	221,500	18.7	15,500	37.2	16,300	14.2	13,400	11.3	559.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 —社(社名)— 、除外 —社(社名)—
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期3Q	24,893,841株	2022年3月期	24,893,841株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	957,120株	2022年3月期	961,278株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期3Q	23,935,802株	2022年3月期3Q	24,179,672株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8
3. その他	10
受注及び販売の状況	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高1,654億98百万円(前年同期比34.7%増)、営業利益116億10百万円(前年同期比123.6%増)、経常利益132億17百万円(前年同期比85.4%増)、純利益105億74百万円(前年同期比80.4%増)となりました。

当第3四半期連結累計期間の連結受注は2,036億13百万円(前年同期比16.2%増)となりました。

第3四半期は534億54百万円(前年同期比12.5%減)となりました。インフレ対策による景気減速の懸念から、設備投資の判断を先送りされる案件が増加しました。過去最高であった第2四半期との比較では、海外の受注が中国を中心に大きく下回る結果となりました。

第3四半期(2022年10月～12月)における報告セグメント別の受注状況(現地通貨ベース)は以下のとおりです。

(当社報告セグメントはグループの販売体制をもとに構成しています。詳細については8ページを参照ください)

セグメントⅠ(「個別」および国内連結子会社)

牧野フライス製作所の国内受注は、前年同期を上回りました。第4四半期は第3四半期を下回る計画です。好調であった半導体製造装置向けの減少によるものです。

セグメントⅡ(MAKINO ASIA PTE LTD)

アジアの受注は、前年同期を下回りました。

中国は前年同期並みとなりました。大型の受注を複数獲得し過去最高であった第2四半期との比較では、大幅に下回りました。ただし今上期に受注が集中したことを踏まえると、自動車の部品や金型向け、および電気電子関連の金型向けを中心に引き続き高い水準を維持しました。第4四半期は、景気減速の懸念が続いていることや、大型の引き合いが減少していることで、第3四半期を下回ると見えています。

インドは前年同期を下回りました。自動車の部品加工向けで設備投資の判断が第4四半期に先送りとなった案件がありました。第4四半期は新車販売台数の増加に伴う自動車向けの引き合いを取り込んで、第3四半期の受注水準を維持するよう取り組みます。

アセアンは前年同期を下回りました。半導体製造装置向けが減少しました。設備投資の判断を先送りされる案件がありました。第4四半期は第3四半期に比べ減少すると見えています。引き合いのある半導体製造装置向けのほか、自動車向けの受注の確保に努めます。

セグメントⅢ(MAKINO INC.)

アメリカは前年同期を下回りましたが、第2四半期に対しては上回りました。自動車や半導体製造装置向けを中心に、引き合い件数の減少が続いています。航空機向けは、前年同期に受注が集中したため、前年同期比では下回りましたが、堅調を維持しました。医療向けも堅調な水準が続いています。

第4四半期はインフレ対策による景気減速が想定され、第3四半期を下回ると見えています。

セグメントⅣ(MAKINO Europe GmbH)

ヨーロッパは前年同期を下回りました。自動車や一般機械の部品加工向け受注が減少しました。

第4四半期は、第3四半期を下回ると見えています。航空機向け受注の確保に努めます。

各地で設備投資に対する慎重な姿勢が強まり、第3四半期の受注は上期の水準を大幅に下回りました。第4四半期も、過去との比較では高水準ながら、前四半期に対しては減少傾向が続くと見えています。この中でも、サプライチェーンの見直しなどに伴うお客様の生産活動の変化を捉え、受注の獲得に努めます。

また、第4四半期も引き続き、連結ベースで積み上がった受注残の解消に向けて増産に取り組めます。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ137億7百万円増加し、3,392億87百万円となりました。主な増減としては、棚卸資産155億64百万円の増加、建設仮勘定49億38百万円の減少、建物及び構築物(純額)45億72百万円の増加、受取手形及び売掛金31億90百万円の減少、投資有価証券26億47百万円の減少及びリース資産(純額)16億59百万円の増加などが挙げられます。

負債につきましては、1年内返済予定の長期借入金を含む長期借入金75億71百万円の増加、仕入債務60億98百万円の減少、未払法人税等の減少12億28百万円及びリース債務9億76百万円の増加などにより、前連結会計年度末に比べ54億53百万円増加し、1,522億55百万円となりました。

また、純資産につきましては、利益剰余金77億1百万円の増加、為替換算調整勘定29億17百万円の増加及びその他有価証券評価差額金17億46百万円の減少などにより、前連結会計年度末に比べ82億53百万円増加し、1,870億31百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の連結業績予想は、前回公表値(2022年7月29日公表)を修正しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	73,100	74,392
受取手形、売掛金及び契約資産	48,432	45,241
有価証券	3,542	3,334
商品及び製品	22,335	27,190
仕掛品	20,342	22,891
原材料及び貯蔵品	35,831	43,992
その他	9,999	11,525
貸倒引当金	△1,326	△1,486
流動資産合計	212,257	227,081
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	32,697	37,269
機械装置及び運搬具（純額）	8,947	9,411
工具、器具及び備品（純額）	4,738	4,795
土地	18,940	19,050
リース資産（純額）	4,289	5,948
建設仮勘定	5,701	763
有形固定資産合計	75,315	77,240
無形固定資産		
その他	3,611	2,971
無形固定資産合計	3,611	2,971
投資その他の資産		
投資有価証券	25,827	23,180
長期貸付金	704	631
繰延税金資産	3,378	4,175
退職給付に係る資産	729	755
その他	3,939	3,402
貸倒引当金	△183	△152
投資その他の資産合計	34,395	31,993
固定資産合計	113,322	112,205
資産合計	325,579	339,287

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,313	17,652
電子記録債務	18,304	19,867
1年内返済予定の長期借入金	4,650	8,857
リース債務	591	888
未払法人税等	2,544	1,315
その他	38,492	43,504
流動負債合計	89,895	92,085
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	23,800	27,164
リース債務	2,510	3,188
繰延税金負債	6,127	5,437
役員退職慰労引当金	129	119
退職給付に係る負債	2,304	2,448
その他	2,033	1,810
固定負債合計	56,905	60,169
負債合計	146,801	152,255
純資産の部		
株主資本		
資本金	21,142	21,142
資本剰余金	37,074	37,056
利益剰余金	101,513	109,215
自己株式	△4,014	△3,997
株主資本合計	155,716	163,418
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,174	12,428
為替換算調整勘定	8,369	11,286
退職給付に係る調整累計額	△369	△592
その他の包括利益累計額合計	22,174	23,122
非支配株主持分	886	491
純資産合計	178,778	187,031
負債純資産合計	325,579	339,287

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	122,872	165,498
売上原価	89,900	117,332
売上総利益	32,971	48,165
販売費及び一般管理費	27,777	36,555
営業利益	5,193	11,610
営業外収益		
受取利息及び配当金	695	977
為替差益	300	-
助成金収入	536	367
その他	637	924
営業外収益合計	2,170	2,269
営業外費用		
支払利息	205	217
為替差損	-	366
その他	27	78
営業外費用合計	232	662
経常利益	7,131	13,217
特別利益		
固定資産売却益	49	34
投資有価証券売却益	16	-
雇用調整助成金	6	-
特別利益合計	71	34
特別損失		
固定資産除却損	43	438
投資有価証券売却損	1	-
特別損失合計	44	438
税金等調整前四半期純利益	7,158	12,814
法人税等	1,281	2,230
四半期純利益	5,877	10,584
非支配株主に帰属する四半期純利益	17	10
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,860	10,574

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	5,877	10,584
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△326	△1,747
為替換算調整勘定	2,907	2,917
退職給付に係る調整額	△141	△224
その他の包括利益合計	2,438	946
四半期包括利益	8,316	11,530
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	8,298	11,522
非支配株主に係る四半期包括利益	18	8

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

「リース」(ASU第2016-2号)

一部の在外連結子会社においては、第1四半期連結会計期間より、ASU第2016-2号「リース」を適用しております。これによりリースの借手は、原則としてすべてのリースを四半期連結貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。また当該会計基準の適用については、経過的な取扱いに従って、当該会計基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

「時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用」

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。

なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(セグメント情報等)

報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループの主な事業は工作機械の製造販売であります。製造は日本、アジアで行っており、販売は海外の重要拠点に子会社を展開して、グローバルな販売活動を行っております。従いまして、当社グループは下記Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの販売体制を基礎とした各社の所在地別のセグメントから構成されております。

報告セグメントⅠ. は牧野フライス製作所が担当するセグメントであり、主たる地域は日本、韓国、中国、大洋州、ロシア、ノルウェイ、イギリス及びセグメントⅡ、Ⅲ、Ⅳに含まれないすべての地域です。さらに、国内関係子会社を含んでおります。

報告セグメントⅡ. はMAKINO ASIA PTE LTD(シンガポール)が担当するセグメントであり、主たる地域は中国、ASEAN諸国、インドです。

報告セグメントⅢ. は、MAKINO INC.(アメリカ)が担当しているセグメントで、南北アメリカのすべての国です。

報告セグメントⅣ. は、MAKINO Europe GmbH(ドイツ)が担当するセグメントであり、ヨーロッパ大陸(ノルウェーを除く)のすべての国です。

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				
	I (百万円)	II (百万円)	III (百万円)	IV (百万円)	計 (百万円)
売上高					
1. 外部顧客に対する 売上高	30,969	53,607	30,449	7,845	122,872
2. セグメント間の内部 売上高又は振替高	45,725	6,294	264	60	52,345
計	76,695	59,902	30,714	7,906	175,218
セグメント利益 又は損失(△)	△31	5,036	876	△590	5,290

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

利益	金額(百万円)
報告セグメント計	5,290
未実現利益の消去他	△96
四半期連結損益計算書の営業利益	5,193

II 当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				
	I (百万円)	II (百万円)	III (百万円)	IV (百万円)	計 (百万円)
売上高					
1. 外部顧客に対する 売上高	37,176	69,768	47,388	11,164	165,498
2. セグメント間の内部 売上高又は振替高	64,083	10,400	346	11	74,842
計	101,259	80,169	47,734	11,175	240,340
セグメント利益 又は損失(△)	4,023	6,133	2,999	△209	12,946

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

利益	金額(百万円)
報告セグメント計	12,946
未実現利益の消去他	△1,335
四半期連結損益計算書の営業利益	11,610

3. その他

受注及び販売の状況

1. 受注の状況

受注高

(百万円未満切捨て)

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 自 2022年 4月 1日 至 2022年 12月 31日		前年同四半期比
	金額	比率 (%)	比率 (%)
I	43,355	21.3	△9.0
II	92,348	45.4	35.0
III	50,993	25.0	12.0
IV	16,917	8.3	23.4
合計	203,613	100.0	16.2

受注残高

(百万円未満切捨て)

セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間末 2022年 12月 31日		前年同四半期比
	金額	比率 (%)	比率 (%)
I	33,429	26.5	3.9
II	42,424	33.6	61.6
III	33,863	26.8	21.4
IV	16,472	13.1	40.4
合計	126,190	100.0	28.7

2. 販売の状況

販売実績

(百万円未満切捨て)

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 自 2022年 4月 1日 至 2022年 12月 31日		前年同四半期比
	金額	比率 (%)	比率 (%)
I	37,176	22.5	20.0
II	69,768	42.2	30.1
III	47,388	28.6	55.6
IV	11,164	6.7	42.3
合計	165,498	100.0	34.7